

「第3回 大月みらい協議会（人口問題・地域活性化を考える市民会議）」

会 議 概 要

日 時 平成27年3月24日（火）午後7時から午後9時

場 所 大月市民会館 4階視聴覚室

出席者 委員18名（2名欠席）

天野太文、小笠原則雄、小俣理美、梶原崇照、小鷹侑子、三枝良光、
佐藤茂幸、志村淳、志村賢二、鈴木昌則、中島啓介、仁科美芳、福嶋尚美、
藤井真弓、星野喜忠、三木範之、武者稚枝子、山口明秀

【事務局】 企画財政課上條課長、企画担当石井リーダー、榎本、鈴木、堀内

1. 星野議長あいさつ

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

今日の会議については、「大月市の何を問題とすべきか？重点課題は何か？」ということを中心に、ワークショップを行います。皆さんで意見を述べ合うということは、実質的には今日が第1回目となります。今までは前哨戦みたいなものです。皆さん全員に参加をいただいて、熱い討論会をしていただきたいと思います。ワークショップのやり方については、進行役の佐藤副議長から説明をお願いします。

2. ワークショップ

（佐藤副議長説明）

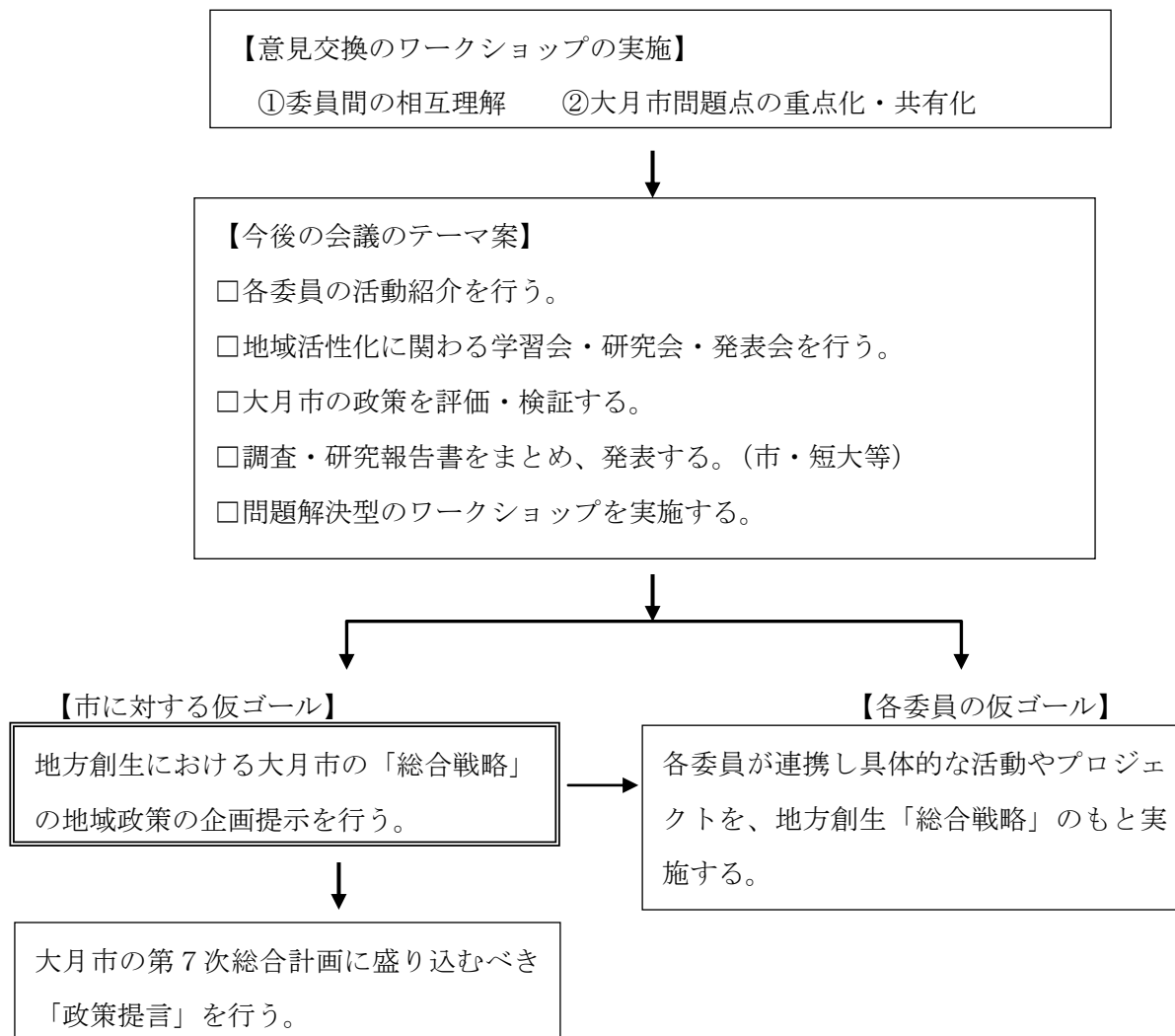
皆さんこんばんは。前回お話しをしました、ワークショップを行います。当初4班で行う予定でしたが、欠席者も出たので、3班で行うこととしました。ワークショップの意義については、大月みらい協議会の進め方の課題として、2つの課題があります。

① 当協議会の目的やゴールが抽象的であり、委員参加者にとってどのような意見を発したらよいか戸惑いがある。また、自分の役割や立ち位置が明らかにできずに、何を求められているかがわからない。

② 運営側（大月市、星野議長、佐藤副議長）にとって、大月みらい協議会から出るであろう様々な意見を、どのように整理し発展的にまとめていくべきかが手探りである。

そして、今回のワークショップを通じて、今後の大月みらい協議会の進め方のイメージを示してみました。

■大月みらい協議会の仮ゴールの設定と実施内容イメージ



■ワークショップ（WS）の実施内容

①WS実施の目的

- 1) 各委員が自由にバランス良く意見を発言し、創造性が発揮できる雰囲気や関係性を作る。
- 2) お互いの思いや考えの背景を知り、相互理解を深める。
- 3) みらい協議会でできそうなことの手がかりを探る。
- 4) みらい協議会を発展させて、地域の問題解決につながる産学官連携や市民協働等の企画・活動・事業をイメージする。

②WSの形式とテーマ

- 形式：ワールドカフェ
- テーマ（問い）：「大月市の何を問題にすべきか？重点課題は何か？」
- 所要時間：80分

③WSの進め方

- 1) 5名～6名程度からなるグループ（テーブル）を作って議論をする。したがって、

テーブル数（グループ数）は3つにする。

- 2) 各テーブルにおいて3つのラウンドで対話を行い、「問い」についての意見交換を行う。3つのラウンドの終了後に全体発表にて意見をシェアする。
- 3) 今回のWSの目的は、お互いを知って関係性を築くことにおく。何かの意見を集約し結論を得ることとはしない。したがって、自由に言い合い、気づきを得ることに注力をする。
- 4) WSメンバーには、委員以外の市の職員（事務局）も参加し意見交換を活発にしてください。ただし、市職員の肩書を外して一市民の立場で自由に意見を言うこととする。また、進行役のサポートを臨機応変に行う。
- 5) 最後のまとめにおいて、当協議会メンバーで共有できる「大月市における問題意識」を1件～3件程度明らかにする努力を試みる。
- 6) 全体の進行としてのファシリテートは大月短大・佐藤が行う。

■各班からの課題発表

【1班】

（メンバー）志村淳委員、小俣委員、中島委員、小笠原委員、福嶋委員、志村賢二委員、榎本（事務局）

（進行役・発表者）中島委員

<課題>

①人口問題（市外への人口流出が多い）

人口問題が課題として出ました。大月市外から市内に入ってくるだけではなく、大月から出ていく人が現実的に多いという点が課題として出ました。市外への人口の流出を防ぐにはどうしたらいいかということ話し合いました。

②教育

人口の流出を防ぐためにはどうしたらいいかということから、話題に上がったのが教育でした。教育を充実させることによって、人を呼び寄せるのではないかという意見がありました。

③市民意識

市民は、大月はいいところであると思っているが自信がない。大月は何も無いということを謙遜して言っているのかもしれないが、自信がないのではないか。大月はいいところがあるということ、自信を持って、市民が胸を張って言えれば大月市の雰囲気も良くなり、市民の皆さんの考え方も変わってくるという意見がありました。諦めという嫌な意識もあると思うが、まずは大月市民が活発になるということ、大月はいいところがあるということに自信を持っていただいて、その上で住んでもらう環境と、人が出て行かない努力が必要であるという意見が出ました。

④交通の要衝

大月は交通の要衝である。行き来がしやすい。それにもかかわらず、定住者が少ない理由は、住みやすくないということであり、そこをどうしていくかが課題であるという意見がありました。

【2班】

(メンバー) 鈴木委員、小鷹委員、三木委員、梶原委員、藤井委員、
上條(事務局)、堀内(事務局)

(進行役) 藤井委員 (発表者) 三木委員

<課題>

①市民意識

大月市の何が問題かということで、一番に上がったのが、市民意識でした。郷土愛についての市民の意識が低く、諦めの機運があり、それによって市民の流出があるのではないかという意見がありました。

②仕事

簡単に言うと、稼げなければ仕方ないという意見がありました。平坦な土地が少ないという問題による限られた場所、働き場所の問題があるという意見がありました。東京に近いから安易に東京へ稼ぎに行くという意見もありました。

③教育

競争の激しい東京との教育格差があるという意見がありました。受験において、東京と違いがある状況を知る、知らないでは大きな差があり、それを知った上でないと子育て世代に住んでもらうことができない。

また、スポーツは非常に盛んだが、スポーツに比べたら勉強がおろそかになる状況があるという意見がありました。それが全国学力39位ということで学力低下になっているという意見もありました。

教育の部分は、非常に時間がかかることであり、多くの女性や母親から見ると非常に気になる部分であり、もう少し問題意識を持つ必要があるという意見でした。

【3班】

(メンバー) 天野委員、星野委員、仁科委員、三枝委員、武者委員、山口委員、
石井(事務局)、鈴木(事務局)

(進行役・発表者) 武者委員

<課題>

①教育

勉強ももちろん大事ですが、人間力を高めることも一つ大事なことであるという意見がありました。また、地域愛、郷土愛という、大月の人たちが、大月の歴史を意外

と知らないのではないかという意見もありました。

郷土愛を持つためには何か核となるものがないと、ふらふらしてしまいます。例えば、岩殿山と小山田氏のこと、それ以前は修験道であったこと、岩殿山が海の底であったこと、桃太郎伝説や鬼の杖など、このほか大月は笹子から梁川まで、広くてたくさん歴史があるまちです。そのようなことを一つ一つ、もう一回、子どもたちに見ていただいたり、教えてあげて、大月を好きになってもらうことが必要です。「大月なんていいから、とにかく勉強して東京に行きなさい」ということではなく、大月が好きになる気持ちがあれば、子どもたちが成長して、出て行ってしまっても、心のどこかに大月に戻ろうという気持ちになったりします。大月を常に気に掛けるようになります。

子どもを大切に作る社会ということについても意見がありました。今、子どもは普通に育っていると思われませんが、虐待の問題と、子どもを育てられない人たちが非常に多いです。親が育てられないのであれば社会が育てるという中で、大月の地域は、心が温かい人が多く、今、大月だったら外で遊ばせられ、安全に子育てができるのではないかという意見がありました。昔は当たり前のことが、今は当たり前のことではなくなっている状況があります。遊ぶ場所についても、遊び場所まで親が車で送り迎えをし、子育てに親が疲弊しています。安全であれば問題ないのですが、遊べる場所がないという問題も意見としてありました。

② 住居

子育てに関連して、住居の問題があります。一人暮らしや学生向けの単身で住む場所がありますが、家族が住む場所が少ないという意見がありました。前回の話し合いでも出ましたが、空き家とかは築年数が古かったりするため、世帯を構えるというには大月市外へ出てしまっている。家族が住む住宅を新しく建てるのか、あるいはリフォームするときの資金を出すなど、住宅を増やしていったらどうかという意見がありました。

③ 大月オリジナルの発掘

大月オリジナルの「もの」や「人材」を発掘したらどうかという意見がありました。大月は駅であったり、インター、ジャンクションであったり、必ず通る場所です。通過する人たちに、おもしろいものがあるから寄ってみようという気持ちにさせる「もの」や特に高齢者の「人材」等、ここでしか手に入らないものであれば、全国各地から取り寄せたり、買いに来てくれる時代です。スーパーには太刀打ちできないけど、ここでしかないものをどんどん発掘していけたらよいという意見がありました。

大月は人材が豊富です。大月市に住んでいる、住んでいないにかかわらず、大月に関係があった人も含めていろいろな人たちがいます。その方たちに講演等してもらって、大月市民が大月を再発見し、共有できれば良いという意見もありました。

3. その他

- ・第4回会議 平成27年4月15日（水）19時から
市民会館4階視聴覚室で開催予定。